

へき地医療機関における専門診療科に関する検討

研究分担者	小谷 和彦	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門	教授
研究協力者	中村 晃久	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門	助教
研究協力者	山内 美樹	自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門	研究生

研究要旨

へき地医療では専門診療科の設置や専門医の定期的な応援診療が検討される。今回、へき地医療機関において、患者がその医療機関で必要と思う専門診療科について調査した。

総合診療をベースとする5つのへき地医療機関の外来を受診した成人患者（734人）を対象に、同機関に必要な専門診療科について自記式質問紙調査を行った。なお、調査期間は2024年1～2月であった。

全施設で464人（回収率：63%）から回答が得られた。男性が196人（45%）で、女性が239人（55%）であった。70歳代が144人（33%）と最も多く、80歳代が108人（25%）、60歳代が100人（23%）と続いた。必要と思う専門診療科は、上位から順に、「整形外科」、「循環器科」、「眼科」、「耳鼻咽喉科」、「消化器科」であった。また、専門的な診療を受ける場合に、199人（50%）が専門医との対面診療（月1-2回程度）を希望していた。

へき地医療機関に求められる専門診療科の上位は、過疎地での特定診療科、あるいは、専門性の比較的高い診療科に相当すると思われた。今回の結果は、専門診療科の設置や専門医派遣に関する資料になる。へき地医療の診療機能や社会医療法人の医師派遣のあり方（専門医を含む）を議論するための資料にも繋がるかもしれない。

A. 研究目的

わが国では、診療科や専門医の地理的偏在が指摘されているが、へき地医療において、専門診療科の受診機会やアクセスの困難さが、医療計画の策定時等に検討事案になることがある。へき地においては、特定の専門科を設置したり、専門医の定期的な応援診療を受けたりして、専門診療科の診療を確保するような体制もとられている。

へき地医療における専門診療科の検討に参考資料は必要である。今回、総合診療をベースに医療を提供しているへき地医療機関を受診する患者が、その機関に必要なと思う専門診療科について調査することにした。

B. 研究方法

本研究は、総合診療を主に提供しているへき地医療機関（1病院と4診療所）の外来を受診した成人患者（734人）を対象にして、自記式調査票を配布し、留め置いて回収した。調査期間は2024年1月15日から2024年2月29日までとした。調査票において、へき地医療機関の受診者が同機関に必要なと思う専門診療科について、代表的な21の診療科から3つを選択するようにして回答を得た。なお、こ

の場合に必要な専門診療科とは、調査対象になった機関に常設されていない診療科を意味した。

（倫理面への配慮）

自治医科大学倫理調査委員会の承認（臨大 23-123）を得て、本調査を行った。

C. 研究結果

5施設で464人（回収率：63%）から回答が得られた。回答者の内訳は、男性が196人（45%）で、女性が239人（55%）であった。年齢は70歳代が144人（33%）と最も多く、80歳代が108人（25%）、60歳代が100人（23%）と続いた。受診している診療科としては、上位から順に、「内科」296人（69%）、「眼科」89人（21%）、「整形外科」72人（17%）であった。

230人（57%）が専門診療科の受診を希望すると回答した。同機関に必要なと思う専門診療科は、上位から順に、「整形外科」185人（19%）、「循環器科」149人（15%）、「眼科」106人（11%）、「耳鼻咽喉科」79人（7.9%）、「消化器科」64人（6.4%）であった（表1）。また、専門的な診療を受ける場合の受診方法として、199人（50%）が「へき地医療機関での

専門医との対面診療（月 1-2 回）」と、181 人(45%)が「専門医への紹介」と、16 人(4.0%)が「専門医とのオンライン診療」と回答した。

表 1. 受診を希望する専門科

順位	診療科	回答数
1	整形外科（腰痛、膝関節症、骨折、椎間板ヘルニア）	185(19%)
2	循環器科（心筋梗塞、心不全、不整脈、高血圧など）	149(15%)
3	眼科（白内障、緑内障など）	106(11%)
4	耳鼻咽喉科（中耳炎、扁桃炎、鼻炎、難聴など）	79(7.9%)
5	消化器科（胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、肝炎など）	64(6.4%)
6	歯科口腔外科	53(5.3%)
7	泌尿器科（前立腺肥大、尿管結石、膀胱炎など）	51(5.1%)
8	呼吸器科（喘息、気管支炎、肺炎など）	38(3.8%)
8	皮膚科（アトピー性皮膚炎、水虫、にきび、いぼ、褥瘡など）	38(3.8%)
10	内分泌代謝・糖尿病内科（糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患など）	34(3.4%)
10	脳神経科（認知症、パーキンソン病、てんかん、神経難病など）	34(3.4%)
12	アレルギー・リウマチ科（花粉症、膠原病、関節リウマチなど）	27(2.7%)
13	リハビリテーション科（機能回復の訓練など）	21(2.1%)
14	腫瘍科（がん、抗がん剤治療など）	19(1.9%)
15	精神科・心療内科（躁うつ、統合失調症など）	17(1.7%)
16	小児科	12(1.2%)
17	腎臓科（慢性腎臓病、透析など）	11(1.1%)
18	産科・婦人科（分娩、婦人科系疾患、更年期障害など）	9(0.9%)
19	乳腺科（乳腺症、乳がんなど）	8(0.8%)
20	血液科（貧血、白血病など）	6(0.6%)
21	美容外科（美容処置、脂肪吸引など）	1(0.1%)
22	その他	3(0.3%)
23	わからない	32(3.2%)
合計		997(100%)

重複回答あり。

D. 考察

へき地医療機関で必要な専門診療科を検討した。今回は、総合診療をベースにした医療機関（複数機関）で、受診している患者を対象として実施した。この調査法は、へき地医療機関の実情に即した回答

が得られやすい面があると判断してのことであるが、高齢者が中心の調査になっている点などに留意が要すると思われる。

「整形外科」、「循環器科」、「眼科」、「耳鼻咽喉科」、「消化器科」が上位であった。診療に比較的専門的な処置や器具を必要とする診療科が上位に挙げられているようにとらえられた。整形外科では、関節内注射や神経ブロック等の必要とされる専門の技術も多岐に渡る。循環器では、心不全、不整脈、心筋梗塞後の管理に、心臓超音波検査やホルター心電図等の機器と専門的判断が必要である。眼科では、細隙灯顕微鏡といった眼科特有の診察器具が使用される。耳鼻咽喉科では、耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡を用い、処置が必要であれば、麦粒鉗子、耳垢鉗子等の器具と専門的判断が必要とされる。総合診療において、このような比較的専門的な診療を提供するのは難しい面があるため、これらの専門診療科が上位になったと推定された。また、眼科や耳鼻咽喉科はへき地や過疎地での特定診療所を設置し得る診療科として挙げられてきた経緯がある。この経緯とも符合するものと思われた。

今回の結果は、拠点集中的な診療を要する診療科やへき地医療において整備すべき診療機能の議論にも関わり得る。専門診療科については、常時でなくても定期的な対面診療を求める声が半数程度あることも参考になると思われる。社会医療法人のへき地への医師派遣のあり方（専門医を含む）の議論もあるところであり、こうした場合の資料になるかもしれない。これらを含めて、今後、さらに多角的に検討を続けていく必要がある。

E. 結論

へき地医療機関を受診した患者が、同機関に必要なと思う専門診療科として、「整形外科」、「循環器科」、「眼科」、「耳鼻咽喉科」、「消化器科」が上位に挙げられた。へき地医療における診療機能や体制整備等の検討に向けて、患者レベルでの専門診療科リストが得られたことは意義あることと思われ、さらに多角的に検討していく。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況
なし